

二尺多ク叢生ス、四月花ヲ開ク、圓莖高サ一尺許、梢ニ二三花開謝相續グ、形ハナセウブニ似テ小ク、瓣狭ク紫碧色、大小數十種アリ、又白花ナル者アリ、秘傳花鏡ニ白花蔘紫花蔘ノ名アリ、

〔増補地錦抄〕六、花。菖蒲。るひ

るり八重　るり色、黒きほどなり、せんやう、大りん、　　玄やれかき　うすがき色、ひとへ、

江戸紫　こいむらさき、八重と一重あり、　　白　雪白、ひとへ八重有、八重は少さくら色、

村雲　白ひとへに、うすきべにのかすりうるはしく有、　　紅綾　むらくものごとく、白にべ

にかすり有、　　縮緬　へり玄ぼりにて、さらさあり、　　紫縮緬　むらさきにちぢみ有、ひ

とへ、　　花せうぶるひ、右之外いろく、有、

○白昌草

紫あやめ　葉は花せうぶのごとくなり、菖蒲杜若較草等に紛やすく、あやめたれ共、各別ちがひ

有草也、花紫せんやうとひとへ有、　　白あやめ　玄ろし、花の中黄色、八重ひとへ有、

柿あやめ　うすかきいろ、八重ひとへあり、　　是まであやめるひ略○中

菖蒲　端午に家をふく草也

鬼石菖　葉ひろく長し、玄やうぶに似たれば、菖蒲せき玄やう共云、

鎌倉石菖　葉ほそく長く、色青み上々よし、葉先玄やんとたちてほそし、是を上とす、

東石菖　葉形かまくらにまざる、計似たれ共、玄やんとた、ず故にわろし、

唐石菖　葉みじかく、色青みよし

琉球　からせきせうのるひ、葉大きくわろし、

〔地錦抄附録〕二、花菱石竹　花形紋所の花びしのかたちにて、色上々の紅ながめすぐれでよし、五

月中旬、つねの石竹同時に花開く、又一種花形同断にて、うす色ほんのりときれいなるあり、櫻び